

ウィズコロナ時代の 新たながん医療とは

新型コロナウイルスの今後の動向を見据えながら、がん医療あるいは検診はどうあるべきか、
また、がんサバイバーはどのような生活をすればよいのか、
ウィズコロナ時代のがん医療の在り方について皆様とともに考えたいと思います。

令和3年

日時

2月23日(火・祝)

13:00開演(16:00開演予定) ※途中休憩あり

主催 公益財団法人SGH財団
後援 公益財団法人日本対がん協会
読売新聞大阪本社
協力 SGホールディングスグループ

スケジュール

12:30 開場

13:00 開演

主催者挨拶

公益財団法人SGH財団理事長

SG ホールディングス株式会社代表取締役会長

佐川急便株式会社会長

栗和田 榮一

講演

新型コロナウイルスの疫学動向を評価・デザインする

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻教授

西浦 博

がんサバイバーからみた新型コロナウイルス

聖路加国際病院副院長 乳腺外科部長

山内 英子

新型ウイルスとがん放射線治療について

千葉大学大学院医学研究院画像診断・放射線腫瘍学教授

宇野 隆

休憩

パネルディスカッション

司会

日本赤十字社和歌山医療センター院長

平岡 眞寛

国立病院機構京都医療センター名誉院長

小西 郁生

パネリスト 西浦 博, 山内 英子, 宇野 隆

16:00 閉演

コーディネーター

平岡 眞寛

司会

小西 郁生

植月 百枝

講演「新型コロナウイルスの疫学動向を評価・デザインする」



新型コロナウイルス感染症の影響は甚大で、皆さんの生活に大きな影響を及ぼしてきました。治療は次第に確立してきたものの、特異的な予防は未だ十分に行き渡っておらず、これまでに実施した流行対策は古典的な行動制限による接触削減策が中心的なものとなりました。今回の講座では、これまでにそういった対策をどのようにデザインしており、春の緊急事態宣言などがどのように評価されるのか、振り返っていきたいと思います。また、プロジェクションと呼ばれるシナリオ分析によって今後の見通しについて、私たちの限られた科学的検討で明らかに出来ることをご紹介します。

京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻教授

西浦 博

学 歴

平成14(2002)年 宮崎医科大学医学部医学科卒業

平成18(2006)年 広島大学大学院保健学研究科博士後期課程修了

職 歴

平成23(2011)年 香港大学李嘉誠医学院・公共衛生学院 助理教授

平成25(2013)年 東京大学大学院医学系研究科国際社会医学講座 准教授

平成28(2016)年 北海道大学大学院医学研究院社会医学分野 教授

令和 2(2020)年 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 教授



世界は、新型コロナウイルス感染症という大きなチャレンジを受けています。今まで当然と思ってできていたことができなくなったり、なかにはこの病で大切な人を失った方もいらっしゃるかもしれません。原点に立ち返り、「今まで当然と思っていたことに感謝する」そんな時間が与えられているのかもしれない。皆さんも、がんサバイバーとして、ご自分にどんな影響があるか、どう対策したらいいか、ご不安な毎日だと思います。その中で、わかっていないことにいたずらに不安を覚えるのではなく、ご一緒にわかっていることに対する正しい知識を得ながら、できることを見つけていきましょう。

聖路加国際病院副院長 乳腺外科部長

山内 英子

学 歴

昭和62(1987)年 順天堂大学医学部卒業

職 歴

昭和62(1987)年 聖路加国際病院外科レジデント
平成 5(1993)年 聖路加国際病院外科医員
平成 6(1994)年 Dana-Farber癌研究所研究助手
平成 8(1996)年 Georgetown大学Lombardi癌センター研究フェロー／助手
平成13(2001)年 Hawaii大学外科レジデント
平成16(2004)年 Hawaii大学外科チーフレジデント
平成17(2005)年 Hawaii大学外科集中治療学臨床フェロー
平成19(2007)年 Moffitt癌センター／South Florida大学臨床フェロー
平成21(2009)年 聖路加国際病院乳腺外科医長
平成22(2010)年 聖路加国際病院乳腺外科部長、ブレストセンター長
平成29(2017)年 聖路加国際病院副院長

アメリカでの乳がんの研究、臨床経験を生かして、患者に寄り添う診療を目指している。

講演「新型コロナウイルスとがん放射線治療について」



日本では年間およそ100万人の方ががんに罹患しています。放射線治療は、乳がん、肺がん、前立腺がん、頭頸部がん、子宮頸がんなどを中心に、年間約30万人の方が受けている大切ながん治療です。科学技術の進歩とともに急速に発展し、体への負担が少なく高い効果が得られる治療となりました。医師、技師、医学物理士、看護師によるチーム医療ですが、スタッフの数はまだまだ不十分です。コロナ禍でも病院の放射線治療機能がストップすることなく、患者の方々が精度の高い放射線治療を安心して受け続けられるよう、細心の注意を払って診療にあたっています。

千葉大学大学院医学研究院画像診断・放射線腫瘍学教授 **宇野 隆**

学 歴

昭和63(1988)年 千葉大学医学部卒業

職 歴

昭和63(1998)年 千葉大学医学部附属病院研修医

平成 2(1990)年 国立病院医療センター放射線科厚生技官

平成11(1999)年 千葉大学医学部附属病院放射線科 講師

平成15(2003)年 千葉大学大学院医学研究院 放射線腫瘍学 助教授

平成24(2012)年 千葉大学大学院医学研究院画像診断・放射線腫瘍学 教授

平成30(2018)年 千葉大学大学院医学研究院 副研究院長

所属学会・役職:公益社団法人日本放射線腫瘍学会(専務理事、COVID-19対策アドホック委員長)、日本医学放射線学会、日本婦人科腫瘍学会(理事)、日本癌治療学会(代議員)、日本食道学会(評議員)、米国放射線腫瘍学会。専門医資格等:日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定放射線治療専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、第1種放射線取扱主任者。



日本赤十字社
和歌山医療センター院長

平岡 眞寛

国内外で蔓延化している新型コロナウイルス感染症は、社会の各分野で大きな影響を与えている。医療は、その最たるものであり、必要な医療が提供できなくなる医療崩壊の危機にすら瀕している。がんは、二人に一人が罹る重篤な国民病であり、いかなる状況であっても継続した適切な医療が提供されなければならない。本感染症による治療開始の遅れが10%前後死亡リスクを高めたとの報告が最近なされている。ウィズコロナ時代において、コロナ対策とがん医療をどのように両立して国民の命と健康を守っていくか、パネリストとともに議論を深めたい。

学 歴

昭和52(1977)年 京都大学医学部卒業
昭和59(1984)年 京都大学大学院医学研究科博士課程修了

職 歴

昭和59(1984)年 京都大学医学部附属病院放射線科助手
昭和62(1987)年 米国スタンフォード大学放射線腫瘍科客員助教授
平成 元(1989)年 京都大学医学部講師
平成 4(1992)年 京都大学医学部助教授
平成 7(1995)年 京都大学大学院医学研究科教授
平成19(2007)年 京都大学医学部附属病院がんセンター長 併任(～平成21年5月)
平成24(2012)年 京都大学産官学連携本部副本部長
平成28(2016)年 日本赤十字社和歌山医療センター院長



国立病院機構
京都医療センター名誉院長

小西 郁生

今、コロナ禍で健康面の心配事が増えています。とりわけ、がんの治療中や治療後のみなさまは「感染したらどうしよう?」と不安な毎日を送られていることでしょう。また、「コロナ禍ではがん治療法も変わってしまうのか?」と心配される方、あるいは「コロナが心配なのでがん検診はやめておこう!」とおっしゃる方も増えており、がん予防について新たな問題が発生しているようです。そこで、今回の講座では、みなさまが感染しないために気をつけること、がんを防ぐために注意すべきことを、しっかりと学んでいきたいと存じます。

学 歴

昭和51(1976)年 京都大学医学部卒業
昭和63(1988)年 京都大学大学院医学研究科博士課程修了

職 歴

昭和61(1986)年 京都大学医学部附属病院産科婦人科助手
平成 4(1992)年 米国アーカンソー医科大学研究員
平成 5(1993)年 京都大学医学部婦人科学産科学講師
平成11(1999)年 信州大学医学部産科婦人科学教授
平成15(2003)年 同 附属病院副病院長
平成19(2007)年 京都大学医学研究科婦人科学産科学教授
平成20(2008)年 同 医学部附属病院副病院長
平成28(2016)年 国立病院機構京都医療センター院長
令和 2(2020)年 同 名誉院長・特別研究員

司会

フリーアナウンサー

植月 百枝

これまでの市民公開講座

第18回「がんゲノム医療について ～精密医療の到来?～」

開催日: 令和2年2月24日(月・振休) 会場: ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター(大阪市)

第17回「がんとともに生きる ～患者に寄り添う医療とは?～」

開催日: 平成31年2月24日(日) 会場: ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター(大阪市)

第16回「こんなに進んだ! 肺がん治療の最前線」

開催日: 平成30年2月18日(日) 会場: ハービスOSAKA ハービスHALL(大阪市)

第15回「こんなに進んだ大腸がん診療!」

開催日: 平成29年2月26日(日) 会場: ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター(大阪市)

第14回「泌尿器科がん: 診断・治療の最前線」

開催日: 平成28年2月21日(日) 会場: 新大阪イベントホール レ ルミエール(大阪市)

第13回「こんなに進んだ乳がん治療!」

開催日: 平成27年3月15日(日) 会場: 大阪国際会議場(大阪市)

第12回「輝いて生きる」

開催日: 平成26年2月16日(日) 会場: よみうりホール(東京都千代田区)

第11回「がんと人生」

開催日: 平成25年3月24日(日) 会場: 有楽町朝日ホール(東京都千代田区)

第10回「子宮がんの予防と治療」

開催日: 平成24年3月20日(火・祝) 会場: 国立京都国際会館(京都市)

第9回「乳がんの治療と診断」

開催日: 平成23年3月27日(日) 会場: 京都大学 時計台ホール(京都市)

第8回「集学的がん治療 ～治療成績向上を目指したチーム医療～」

開催日: 平成22年3月28日(日) 会場: 京都大学 時計台ホール(京都市) 共催: 文部科学省がんプロフェッショナル養成プラン

第7回「がん治療最前線 ～大きく変わるがん治療(薬物、放射線、外科治療)～」

開催日: 平成21年3月22日(日) 会場: 東海テレビ テレピアホール(名古屋市) 共催: NPO法人日本臨床腫瘍学会

第6回「府民とともに考える京都のがん医療」

開催日: 平成20年2月2日(土) 会場: 京都産業会館 シルクホール(京都市) 共催: 京都新聞社

第5回「大腸がんの最前線」

開催日: 平成19年3月17日(土) 会場: 京都市北文化会館(京都市)

第4回「肺がんの最新情報」

開催日: 平成18年3月25日(土) 会場: 京都産業会館 シルクホール(京都市)

第3回「がんの予防と胃癌治療の最前線」

開催日: 平成17年2月26日(土) 会場: 京都会館第二ホール(京都市)

第2回「前立腺がんの最新情報」

開催日: 平成16年3月20日(土・祝) 会場: 国立京都国際会館(京都市)

第1回「乳がんの最新情報」

開催日: 平成15年2月1日(土) 会場: 京都市北文化会館(京都市) 共催: 京都新聞社

公益財団法人SGH財団概要

設 立 昭和61年2月14日(平成22年11月1日公益財団法人へ移行)

理事長 栗和田 榮一

(SGホールディングス株式会社代表取締役会長／佐川急便株式会社会長)

目 的 国際的で活力ある社会の創造に向け、多面的かつ幅広く社会活動に寄与することを目的として、経済・産業、教育・文化、医療・福祉等の振興・発展を図るための研究及び事業への助成等を行う。

事 業 東南アジア諸国からの外国人留学生に対する支援事業

がん(癌)に関する基礎研究及び応用治療研究に対する助成・褒賞等の支援事業

経済・産業活動を支える運輸・物流に関する支援事業

上記に関する情報資料収集及び出版物の刊行、講演会等による普及・啓発活動 など

所在地 〒600-8009 京都市下京区函谷鉾町79 ヤサカ四条烏丸ビル9階

TEL: 075-255-9310

FAX: 075-255-9311

e-mail: info_cr@sgh-foundation.or.jp URL: <https://www.sgh-foundation.or.jp>



公益財団法人SGH文化スポーツ振興財団

[開館時間] 午前9時30分～午後5時(最終入館は午後4時30分まで)

[休 館 日] 月曜日(祝日に当たる場合はその翌日)、年末年始、展示替期間

[入 館 料] 一般1,000円／高大生600円／中学生以下無料(※保護者の同伴が必要)

[所 在 地] 〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川2891

TEL: 077-585-7800 FAX: 077-585-7810

当財団では、文化やスポーツの普及振興を通じて、地域社会における人々の心身の健全な発達、青少年の育成に寄与し、明るく豊かで活力に満ちた社会の実現に貢献します。

また、文化事業として佐川美術館を運営し、和の印象を重視した建物は、「水に浮かぶ美術館」と称され、数々の建築賞やデザイン賞を受賞。日本画家・平山郁夫、彫刻家・佐藤忠良、陶芸家・十五代樂吉左衛門の3作家の展示を中心に、バラエティー豊かな展覧会やイベントを開催しています。